

組合事務所は「団結の砦」

憲法に保障された
労働者の権利を守れ！



12・16最高裁包囲行動

大阪市労組の組合事務所退去通告問題で「上告を受理せよ」の訴えを聞く仲間たち

最高裁に上告している労働事件の勝利をめざして、12月16日に「最高裁包囲行動」が行われ、全国各地から参加した250人が「最高裁は公正な審理と判決をおこなえ！」と、シプレヒコールを響かせました。

集会では大阪市労組の田所委員長が「組合事務所裁判」について決意を語り、大阪自治労連弁護団の城塚弁護士はこの裁判の意義と現在の局面について訴えました。

16日の早朝宣伝には、前夜に大阪を出発した「弾丸バス」に大阪市労組をはじめ、堺市職労や豊中市職労、泉佐野市職労の仲間や、大阪労連の民間部会の仲間など34人が乗り込み、最高裁で合流して90人の参加で行いました。

大阪自治労連は憲法に保障された労働者の権利を守るために、今年も多くの仲間とともにたたかいをすすめていきます。

見よ！これが民意だ

沖縄に基地NO!

「沖縄に基地はいらない」沖縄県民の民意尊重、基地の押しつけ撤回を掲げた12・10おおさか総がかり集会 in 扇町公園には4000人が集まりました。



音楽、仕事、組合活動… 重なりあつて響きあつて



堺市職労青年部部长

池側 将司さん (堺市上下水道局)

大学時代からビオラを弾き始め、昨年2月の堺市職労結成70周年式典でも仲間とともに演奏を披露した池側さん。職場のある三国ヶ丘の上下水道局庁舎を訪ねて仕事や音楽、組合活動についてうかがいました。



昨年の演奏会でビオラを演奏する池側さん

いのちを支える 仕事にやりがい

堺市役所に入ったきっかけは「生まれも育ちも堺なので、と言えはいいのですが、大学を卒業して民間企業に就職が決まっていた。しかし、リーマンショックで4月から自宅待機とされ、母が心配して『堺市役所が職員募集しているよ』と教

えてくれて、本当に、たまたま『市役所に入ったんです』。現在の仕事は「貯水池の耐震工事や古くなった水道管の入れ替えなどを行っています。堺の全ての水道管の総延長は約2400km、交換には上下水道あわせて60年程度かかります。耐震化の課題もあり、避難所となる学校や病院などを中心に交換をしています。水道管の交換工事は夜間になることもしばしばあるとのこと。仕事のやりがいについて尋ねたところ、「ダイレクトに水道管を入れ替える工事や貯水池の補強工事など形が残るので、わかりやすいですね。



堺市職労70周年記念式典のオープニングでは「ディーンアゴオカ弦楽四重奏団」のメンバーとして演奏しました(2016年2月6日)

住民のいのちを支える仕事ですから、やりがいを感ずります」と、力強く語ります。水道事業の「民営化」については「水がないと人間は生きていけないし、水に替わるものはありません。『民営化』してはいけないと思います」と、きっぱり。

音楽を通して ひろがる「輪」

大学時代から始めたビオラ演奏については「大学で何かサークル活動をしようにと思い、せっかくなら長く続くものを」と。『たまたま』ですが音楽系がいかにと大学の交響楽団に入りました。ビオラを選んだのは、低音がカッコいいから。最初はコントラバスを考えたんですが、長く続けるには持ち運びできる楽器がいいと思って、ビオラにしました。

話します。音楽をやっているよかったです。とは、「年齢や仕事も違う人が同じ目的に向かってがんばることを感じる。音楽を通じて知り合いの輪が広がったりしました。職場も違いますが顔を識れない上司と、たまたま音楽の知り合いの知り合いで、つながることがありました。」

パートが重なり 美しい音色に

音楽と仕事、労働組合の共通点は「楽団でもそれぞれパートの音色が違いますが、それが重なりあつて美しい音色になります。仕事でも職場でも別のことをしているように見えていても、水を安全に市民に届けることにつながっています。労働組合でも同じですよ。いろいろな人が目標に向かって力を合わせる場所ですね」とさわやかに語ります。

「8カ月になる子どもの世話が好きです。青年部活動を通じて結婚もできたので、もう少し青年部に残って恩返しをします」と笑顔で語ってくれました。